

北海道北部でのコテングコウモリ *Murina ussuriensis* の 行動圏および隠れ家

中山知洋¹⁾・村山良子²⁾・佐藤雅彦³⁾・前田喜四雄¹⁾

¹⁾ 〒 630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学自然環境教育センター

²⁾ 〒 098-5821 北海道枝幸郡枝幸町栄町 154 日本野鳥の会道北支部会員

³⁾ 〒 097-0311 北海道利尻郡利尻町仙法志字本町 利尻町立博物館

Home Range and Day Roost of an Ussurian Tube-nosed Bat *Murina ussuriensis* in Northern Hokkaido

Tomohiro NAKAYAMA¹⁾, Yoshiko MURAYAMA²⁾, Masahiko SATO³⁾ and Kishio MAEDA¹⁾

¹⁾ Education center for Natural Environment, Nara University of Education, Takabatake-cho, Nara-shi, 630-8528 Japan

²⁾ A member of Do-hoku branch of Wild Bird Society of Japan, 154, Sakae-machi, Esashi, Hokkaido, 098-5821 Japan

³⁾ Rishiri Town Museum, Senhoshi, Rishiri Is., Hokkaido, 097-0311 Japan

Abstract. Some information on home range and day roosts of an Ussurian tube-nosed bat *Murina ussuriensis* in Sarufutu-Mura, Soya-Gun, Hokkaido were obtained by radio-tracking. The home range was about 10ha, and the day roosts were in some grass thickets and tree hollow.

コテングコウモリ *Murina ussuriensis* は日本に広く分布し、木の茂み・樹皮の間隙・落葉の下等を昼間の隠れ家として利用するとされている(阿部ほか, 2005)。最近, Hirakawa & Kawai (2006) と平川 (2007) により本種の昼間の隠れ家利用の全体像の解明が進められてきたが、夜間の行動についてはこれまで探求されていない。2008年9月、北海道宗谷郡猿払村浅茅野にある「王子の森」においてコテングコウモリのテレメトリー調査を行い、1個体のみではあるがその行動圏と昼間の隠れ家について若干の新しい知見が得られたので報告する。

報告に先立ち、社有林での調査及びビジターセンターの利用に特段の便宜を図っていただいた王子製紙株式会社、未発表資料の公表を快諾された国立科学博物館動物研究部脊椎動物研究グループ特別研究生である河合久仁子氏に感謝するとともに、コウモリの捕獲については北海道地方環境事務所から捕獲

許可(環北地野許第080512001号)を得た上で実施されたことを申し添えておく。

北海道宗谷郡猿払村浅茅野にある「王子の森(北緯45°12', 東経142°13')」を中心にテレメトリー調査を行った。王子の森のカラマツ林内の遊歩道上にて、カスミ網によりコテングコウモリを捕獲した。小型発信器(Holohil社製, 0.37g)を人体用の接着剤(Torbot社製, bonding cement)を用いてコウモリの背側肩甲骨の間に接着し、50分後に放逐した。その後、受信機および指向性のあるアンテナを用いて昼間の隠れ家と夜間の位置を特定した。昼間の隠れ家については、発信機の存在する方位に徐々に接近しその位置を特定した。夜間の位置では、2地点間からの三角測量法により特定した。

昼間の隠れ家について、9月16日~23日まで毎日特定した。夜間の位置では、日没後約2時間を中心として特定した。なお、具体的な夜間の位置の各

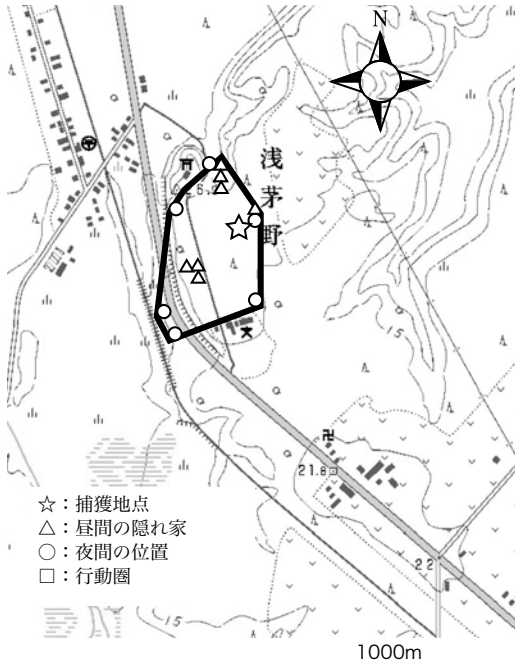


図1. コテングコウモリの昼間の隠れ家と夜間の位置, 捕獲地点, および行動圏。※夜間の位置については代表する6点のみを記載した。数値地図25000(地図画像)「稚内」(国土地理院)をもとに作成。

調査日における測定時刻は以下のとおりである。9月15日には、発信機装着後より同日23時30分まで適宜測定を試みた。9月16日18:30～19:30(15

分ごとに位置測定) 20:00～翌6:00(1時間ごと), 9月17日18:35～20:00(5分ごと)20:00～翌6:00(1時間ごと), 9月18日18:30～20:00(5分ごと), 20:00～翌6:00(1時間ごと), 9月19日18:20～20:00(5分ごと)20:00～24:00(1時間ごと), および9月20日18:20～20:00(5分ごと)20:00～翌2:00(1時間ごと)に測定した。特定した夜間の位置より最外殻法により行動圏を求めた。

2008年9月15日19時00分に捕獲したコテングコウモリは成獣であり, その前腕長は29.3mm, 体重は5.5gであった。捕獲時での個体にはすでに標識が装着されており, これは国立科学博物館動物研究部脊椎動物研究グループ特別研究生である河合久仁子氏により2008年7月16日に同地にある神社において捕獲および標識装着された個体であった。

夜間の位置は, 合計101地点得られた。行動圏の面積は約10haであった。本調査で得られた夜間の位置の一部と行動圏, および昼間の隠れ家の位置を図1に示した。昼間の隠れ家としては, 表1に示した様にオニシモツケ *Filipendula camtschatica* とオオイタドリ *Reynoutria sachalinense* の枯れ葉の中(写真1)やトドマツ *Abies sachalinensis* の



写真, 調査個体の隠れ家(楕円は発信器のアンテナを示す)。1. オニシモツケの枯れ葉, 2. トドマツの樹洞, 3. 利用されていた樹洞(サルノコシカケ類の基部に小さな樹洞がある)。

表1. コテングコウモリの昼間の隠れ家と出巢時刻, および日没時刻*

年月日	隠れ家	高さ	出巢直前に確認した時刻から移動後初めて確認した時刻	日没時刻
2008.9.16	オニシモツケの枯れ葉の中	約 120cm	18:15 ~ 18:20	17:26
2008.9.17	オニシモツケの枯れ葉の中	約 10cm	18:13 ~ 18:20	17:25
2008.9.18	オオイトダリの枯れ葉の中	約 16cm	18:05 ~ 18:17	17:23
2008.9.19	オニシモツケの枯れ葉の中	約 70cm	~ 18:12	17:21
2008.9.20	オニシモツケの枯れ葉の中	約 40cm	18:17	17:19
2008.9.21	オニシモツケの枯れ葉の中	約 35cm	資料なし	17:17
2008.9.22	オニシモツケの枯れ葉の中	約 40cm	資料なし	17:15
2008.9.23	トドマツの樹洞	69.3 cm	樹洞深さ 5cm、開口部長径 4 cm短径 2 cm、胸高直径約 60cm	17:14

※日没時刻は国立天文台が公表している根室におけるものを利用した

樹洞 (写真 2, 3) を利用した。全ての昼間の隠れ家は、発信機のアンテナや個体を直接目視することによって確認された。最近の研究によりコテングコウモリは枯れ葉の中や樹冠を昼間の隠れ家としてよく利用していることが明らかとなってきた (Hirakawa & Kawai, 2006; 平川, 2007)。本種の樹洞の利用は 3 例しか報告されておらず (遠藤, 1961; Kuzjakin, 1950; 湯川, 1969), 北海道では初めての記録となる珍しい結果であった。その樹洞は高さ 69.3 cm であり, 深さは 5cm, 開口部の長径 4 cm, 短径 2 cm という小さなものであった。また, コテングコウモリのいずれの隠れ家も地面からの高さが 10 ~ 120cm の範囲内であり, 林内の中でも低い場所を利用していった。

昼間の隠れ家調査の際に, コウモリの飛翔を観察した。2008 年 9 月 12 日に, オニシモツケの枯れ葉の中で眠っていたコウモリは枯れ葉から飛び出し, 高さ 2m ほどもあるオニシモツケの群落内を巧みに飛翔し 6m 程離れた同様な枯れ葉の中に一瞬にして入り込んだ。そのような場所でも巧みに飛翔できるコテングコウモリの観察であった。

また, 夜間の位置と昼間の隠れ家は全て捕獲地点

より 500m 以内に納まった。さらに, 前述の河合により 2008 年 7 月 16 日に同地にある神社において捕獲および標識装着されており, 2 ヶ月間ほぼ同じ行動圏内にいた可能性が考えられる。

引用文献

- 阿部 永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明, 2005. 日本の哺乳類 [改訂版]. 東海大学出版会.
- 遠藤公男, 1961. コテングコウモリの繁殖例と飛翔習性について. 日本哺乳動物雑誌, 2(1): 14-16.
- 平川 浩文, 2007. コテングコウモリ (*Murina ussuriensis*) の夏季におけるねぐら利用. 東洋蝙蝠研究所紀要, 6: 1-7.
- Hirakawa, H. & K. Kawai, 2006. Hiding low in the thicket: roost use by Ussurian tube-nosed bats (*Murina ussuriensis*). *Acta Chiropterologica*, 8: 263-269.
- Kuzjakin, A. P., 1950. *Letuie Myshi*. Sovetskaya Nauka. pp. 443.
- 湯川 仁, 1966. コテングコウモリの繁殖例と習性知見. 比和科博研報, (10): 11-13